

# WEST LIFE

## 校長の目

令和8年1月27日(火)



1年生の理科は、運動とエネルギーに関する学習で、力のつり合いについて実験を行っていました。穴がたくさん開いている厚紙があり、好きな場所2か所にひもを結びます。もう一方のひもの端をバネばかりに結びます。バネばかりを両側から引っ張って、厚紙が静止したときに、ひもを結んでいる四点をプリントにプロットします。これは、力のつり合いの3条件を確認するために行っています。力のつり合いの3条件とは、①大きさが等しい、②向きが逆、③一直線上になる、です。この実験で言えば、①バネばかりを引く強さが同じである、②左右から引っ張る、③プロットした4点を結ぶと直線になる、です。実験がうまくいっているかどうかは、③を見るとよくわかります。力のつり合いは、日常生活のいたるところで見られます。手で持ったカバンが地面に落ちないのは、手で持つ力とカバンが重力に引っ張られる力がつり合っているからです。椅子に座っていることができるのは、体を下に押す重力と椅子が上へ押しかえす力が釣り合っているからです。つまり、世の中にある物は、力がつり合っているおかげで、安定していると捉えることができます。



毎年、この時期は3年生を対象に性に関する講演会を実施しています。今年も、埼玉医科大学産婦人科医師の高橋幸子先生をお招きし、2時間に渡ってお話をいただきました。性の多様性、交際の段階、避妊、性感染症など、内容は多岐に及びました。現代は、性に関する情報がネット上にあふれていますが、正しいものばかりではありません。また、刺激的な情報の検索回数が多いと、誤った情報に触れる機会ばかりが増えてしまいます。医師から、正しい知識を教えていただくのは、とても貴重な機会です。高橋先生は、市内各中学校を回られています。その語り口は、とても明るくフランクで、生徒の心情に寄り添ったものでした。具体的な事例をもとに話してくださったので、生徒も自分事としてとらえることができたと思います。性感染症については、ちょっとした実験を行いました。生徒一人一人に水の入ったコップが配られます。二人組になって、一方がもう一方のコップに水を全部入れます。そして、相手から半分水を戻してもらいます。これを相手を変えて5回繰り返します。水のやり取りは性交渉、回数は性交渉の回数を意味します。実は、担任が持っていたコップには、水酸化ナトリウムが混入していました。これは、性感染ウイルスを意味します。相手を変えて水をやり取りすると、一人の性感染症が、一気に広がっていくという実験なのです。どのくらい広まったかを確認するために、フェノールフタレイン溶液を一滴たらします。感染しているコップの水は赤く染まります。不特定多数と5回水を交換しただけで、ほぼ半数の人数が感染していました。生徒たちは、性感染症の恐ろしさを身をもって体験することができました。



明日、1月28日は、校内事情により「WEST LIFE 校長の目」は、お休みします。